



プレガードⅡ

(NETIS掲載終了技術 No.SK-060003-VE)

施工目安 45 (m / 日)

側溝・水路類

擁壁類

カルバート類

ヒューム管・推進管

マンホール類

道路製品

集水柵類

その他の製品

NEP工業会製品



背景

平成11年3月の「車両用防護柵標準仕様・同解説」の発刊、及び「道路土工—擁壁工指針」の改訂により、車両用防護柵が設置された擁壁については、衝突荷重を考慮して設計することが明記されました。

標準的な擁壁構造にガードレールを設置した場合の問題点と対策

擁壁形式	既設重力式擁壁	ブロック積み擁壁	プレキャストコンクリートL型擁壁
ガードレールの設置方法			
問題点	●コンクリートの曲げ引張応力度が許容値を超過	●コンクリートの曲げ引張応力度が許容値を超過	●自動車による衝撃力がたて壁に伝達し、たて壁を破損
問題発生の原因	●擁壁天端幅の不足	●擁壁天端幅の不足	●ガードレール支柱とたて壁の距離が不足
対策	●天端幅を大きくする ●鉄筋コンクリート構造とする ●プレガードⅡを設置する	●天端コンクリート幅を大きくする ●天端コンクリートを鉄筋コンクリート構造とする ●プレガードⅡを設置する	●天支柱とたて壁の距離を一定以上確保する ●プレガードⅡを設置する

特徴

施工性

連結による一体化で軽量化を実現し、小型機械で施工可能です。ガードレール支柱が路面側にないため、舗装施工が容易です。

安全性

実験により本体及び連結部の性能を実証しました。擁壁と分離構造にすることで自動車衝突荷重を分散させ、擁壁への影響を少なくしました。

管理

プレガードの取替えが発生した場合は、部分的な取替えが容易です。既存擁壁のガードレール取替え時に天端から0.5mの修繕で対応できます。